



## フードバンク関西ニュー 2008年8月10日 第14号

2008年8月10日発行  
NPO法人フードバンク関西  
事務所 芦屋市呉川町1-15  
Tel/Fax 0797-34-8330  
E-mail [foodbank05@yahoo.co.jp](mailto:foodbank05@yahoo.co.jp)

フードバンク関西は食品関連企業から余剰食品を

受け取り、支援を必要とする人達を支える非営利団体にそれらが無償提供する活動をしています。

### 食品提供がつつぎつつぎ増加中。

フードバンク関西の呼びかけに応じて、食品関連企業からの問い合わせがとて多くなりました。そして次々と新しい企業の皆さんが食品提供企業として参加して下さっています。

前回のニュースでご紹介したハインツ日本(株)に続いて3月には鶯ボールで有名なあられの老舗、植垣米菓(株)、4月には京都伏見の和菓子のメーカー(株)和晃、5月にはチョコレート菓子類でおなじみのネスレコンフェクショナリー(株)、6月には国産原料で春雨を製造している奈良桜井市の奈良食品(株)、7月には西宮鳴尾浜にチーズ加工プラントをもつ(株)宝幸からの食品提供がはじまりました。



和晃からのゼリーと和菓子

植垣米菓(株)からは、あられ類が随時事務所に届きます。いずれも賞味期限まで1カ月以上もある全く問題ないものばかり。雛あられ、有機あられ、鶯ボールなど今までにすでに4回、贈答用に美しく包装されたものも含めて受取団体にお配りし楽しんでいただく事ができました。

(株)和晃が提供して下さる和菓子類は、現在は季節に合わせてフルーツゼリー類、水羊羹が中心です。和晃での商品検品レベルが非常に高く、ゼリーに入れるフルーツの小破片が散っても、溶けきれなかった抹茶の1ミリくらいの塊があっても、小さな泡が入っても、すべて検品落ちとの事、ご提供いただいているのはこれらの食品です。素材の良さがしみじみとわかる上品な甘さのゼリー類は、味も材料も販売されている商品と全く同じです。今までにすでに5回のご提供があり、受取団体には美味しいと大評判、この暑い季節、特に待ち遠しいおやつとなっています。



ネスレコンフェクショナリー(株)からの提供品はネスレのチョコレート菓子です。第一回はDr.ビーンズでした。香ばしくローストした大豆にチョコレートのコーティング、皆さんに大人気でした。2回目、3回目はおなじみのキットカットです。夏場はチョコレートが溶けないように冷蔵庫で保管するのが少し大変。これらは販売品でない

のでバーコードを抹消してお渡ししています。

(株)宝幸の西宮プラントからは、チーズの加工品等をいただく約束ができました。これから月に一回のペースで、ボランティアが鳴尾浜の工場まで受け取りに行きます。7月の第1回目のご提供品はプロセスチーズ、なんと5キロの塊が20個でした。今、チーズ等の乳製品は高価で普通ではたっぷりとは使えない食材です。今回チーズを受け取った福祉団体は、使い甲斐のある量ですからチーズを堪能して下さっている事と思います。他の受取団体の皆さまにも順にお渡しする予定です。乞うご期待！！

奈良食品株式会社からは、国産の原料100%で製造されている春雨10キロ入り20ケースが第一回の提供として届きました。長い春雨をカットしていく時に出る裁ち端です。原料にこだわった上質の春雨、最近はやードルのように春雨を食べるのが流行りとか、良質の澱粉なので消化もよく、お年寄りから子供達まで親しめる食品です。これも順に受取団体の皆さんにお渡しする予定です。このように品質の優れた栄養価の高い食品をフードバンク関西にご提供くださる企業の皆さんが増加して、私たちボランティア一同、活動を充実していけることに大きな喜びを感じています。

これらの食品をご提供下さっている企業の皆さんの、自社で生産した食品の品質に自信とプライドを持ち、たとえ商品として流通させられなくても、どなたかに喜んで食べて頂きたいという熱い思いが伝わってきます。フードバンク関西は、これら命の糧である食べ物、しかもとても上質の食べ物を引き受けて、困難な条件の中で精いっぱい努力をされている受取団体の皆さんにお届けする、信頼できる受け渡し窓口となって、食品の心ある製造者、販売者と、一生懸命に自立を目指して努力している生活弱者の皆さんを、繋げていくシステム作りを続けていきたいと願っています。

## 日本のフードバンクの現状

2007年から今年にかけて、フードバンク関西もずいぶんたくさん新聞に活動紹介記事が掲載されました。その時東京でフードバンク活動をしているセカンドハーベストジャパンと一緒に紹介されることが多かったので、皆さんから両者を同一組織と思っての問い合わせが多くありました。この機会に日本のフードバンク活動の現状を説明してみたいと思います。

まず、フードバンクというのは、20年位前にアメリカ合衆国で、Fight to hunger というキャッチフレーズのもと、開始された活動です。現在では200を超えるフードバンクがあって、大きな倉庫を構え、たくさんのボランティアさんが立ち働いているということです。

日本で一番早くフードバンク活動を開始したのは、東京浅草橋に事務所を構えるNPO法人セカンドハーベストジャパンです。セカンドハーベストジャパンを設立したのは現理事長のマクジルトン・チャールズ氏です。2002年にNPO法人となりました。ボランティアも外国の方がとても多いと聞いています。セカンドハーベストジャパンは毎週土曜日に500人程度のホームレスへの炊き出し活動をしたり、個人への食品提供をしている点で私達と活動が少し異なります。

私達のフードバンク関西を設立したのはブライアン・ローレンス氏でやはり米国人です。彼は2003年4月からフードバンク関西の活動をスタートさせましたが、2003年8月に個人的な理由でオーストラリアに向け出国し、後はその時点で参加していたボランティアが中心になって活動

を継続し、2004年1月にNPO法人となりました。フードバンク関西は、食品関連企業から、安全だが余剰となった食品を、関西地域の生活弱者を支援する福祉団体施設に無償で分配することに徹しています。フードバンク関西は、炊き出しをしたり、直接に生活困窮者に食べ物を配る事はしていない点が、セカンドハーベストジャパンとはっきり異なる点です。

関西地域のフードバンクとして地域に根付くために、フードバンク関西は関西に本社や大きな事業所を置く食品関連企業の皆さんにこの活動趣旨を理解していただき、参加していただく事に大きな努力を払ってきました。幸い、たくさんの企業の皆さんの参加を得て、今日を迎えています。他にフードバンク活動をしているNPOは、今年4月26日に活動を開始した「フードバンク広島」があります。沖縄でも「フードバンク沖縄」が活動を開始したと聞いています。現在の日本で実際にフードバンク活動をしているのは、おそらくこの4団体だけではないかとおもわれます。

### フードバンクとフードドライブの違いについて。

最近よく耳にするようになった言葉にフードドライブというのがあります。昨年カーブスジャパンという女性専用フィットネスクラブを全国に展開している会社が、各店舗でクラブの会員さんに呼び掛けて、家庭で余った食品を集めて福祉団体に寄付するイベントを行いました。マスコミにも取り上げられ、反響が大きかったようです。他では、各地のインターナショナルスクールで生徒会や父母会が主催者となって、行うことが多いようです。フードバンク関西も、今までカナディアン・アカデミーや聖ミカエル国際学校で行われたフードドライブで集まった食品を、福祉団体に配送するお手伝いを何度かしています。

フードドライブとフードバンクの違いは、イベントとして一定期間に余剰食品を集めて福祉施設にそれらを寄付するのがフードドライブ、定常的に企業や個人の皆さまから食品を集めて定期的に生活弱者や福祉施設に無償分配するのがフードバンクです。

## 6年目に向けて

早いもので来期は6年目に突入となります。最近は色々なメディアに取り上げて頂き、食品関連企業から無償で寄贈される食材等は当初に比べると比較にならない程増え、受取団体の皆さんには大変喜んでいただいております。近年知的・精神的・身体障害者施設その他の福祉関連団体では、年々運営が厳しくなっているとの事です。フードバンク関西自体も、福祉関連団体と同じく、運営資金確保が困難な状態が続いております。無償で頂き、無償で提供というシステムなのでこの事業には収入がありません。公的機関の援助や助成と言ったものは皆無です。現在は活動趣旨に賛同して下さる会員の年会費と民間団体の助成金に頼っているのが現状ですが、フードバンクシステムに助成をして頂ける民間福祉財団は少数であり、助成をして頂いたとしても単年度、毎年次々と民間助成団体に応募しなけ

### 理事長 藤田 治



事務所で新聞の取材を受ける藤田理事長

ればならず、応募しても色々な審査を通過してやっと助成が決まります。食品関連企業からの食品の提供が増え、また食品受取団体の数も増大しました。しかし、事業が拡大するとスタッフの確保・配送・事務処理のコストが増大していきます。その運営費の拡大と収入の増加がバランスしない事が、今フードバンク関西が抱える最大の問題です。

一般にボランティアとNPOは同一と思われがちですが、実は大変大きな違いがあります。ボランティアは参加は個人、NPOは法人組織です。収益と報酬の関係では原則ボランティアは無報酬ですが、NPOは非営利であっても収入を上げて運営コストを賄わなくてはなりません。有償スタッフがいる場合も多いです。また、ボランティアは自発的ですが、自立的とは必ずしも言えない。しかし、NPOは自発的で、社会事業を担う民間活動としての自立性・自律性を持っているかどうかが問われます。また、ボランティアは自己実現や自己満足のための活動も多いのですが、NPOの場合は活動趣旨の達成を第一義とし、目的達成度が評価の対象となります。従って優れたマネージメントは必須条件で、一般企業と同様に重要になってきます。NPOとなると組織を維持するためのコストは当然必要かつ重要で、その調達は法人の成否を決める最重要ポイントです。

フードバンク関西の場合、ミッションは明確で、無償スタッフとして参加して下さるボランティアも増加しており、事業の継続可能性もはっきり見通しが立っていますが、最大の問題は収入の安定確保が未確立という点です。まだまだ日本ではボランティアとNPOの違いが混同され、NPO法人への理解度が低いのですが、当事者を含め広くNPO法人への正しい認識と理解を持っていただき、NPO法人の活動が長期継続可能なものとなるように環境が整う事を期待します。

食べ物として値打ちのある食品が、品質とは別の理由で食べ物として扱われずに廃棄されるのを未然に防いで、受取団体の皆さんに美味しく活用して頂いている事は、フードバンク関西のスタッフ・ボランティアの大きな喜びではありますが、フードバンク関西もNPO法人としての事業の発展と拡大を目指して活動の充実を図ると運営コストが増大し、それが収入の安定確保と連動していないことが苦しいところです。フードバンク関西の活動に参加して下さっている食品関連企業の皆さま、そして受取団体の皆さま、運営コストの確保もフードバンク関西の継続的発展の基盤であることをご理解いただき、ご協力を宜しくお願い致します。

## 食品を活用して下さる福祉団体訪問記 第2回

### 特定非営利活動法人よつ葉会 タオ工房

7月15日、フードバンク関西からの食品を活用して下さっているタオ工房さんを訪問させていただきました。よつ葉会は平成4年1月に精神障害者小規模作業所としてつぐみ作業所を開所し、現所在地への移転を機にタオ工房と名を改め、リサイクルショップと小規模作業所としての活動を充実させ、平成18年2月に母体のよつ葉会がNPO法人化し、2つ目の作業所として尼崎出屋敷につぐみ作業所を開所、現在はこの二つの作業所に





通所する46人を支援しています。タオ工房は黄色に白の看板とリサイクルショップの旗が目印の明るいお店。店内には作業所の方々の作られた作品や、地域の皆さんが寄贈された衣類や靴、食器類がセンス良く並べられていて、つい手が伸びてしまいます。寄贈品の中には見事な織りの和服や佐賀錦の帯などもあり、それらは作業所内で斬新なデザインの和装小物に生まれ変わっています。カバンやブックカバー等どれも見事でお値打ち品です。

お客様の注文も多く、用途に合わせて別注も可能との事。これらはよく売れるので大事な収入源、ぜひタオ工房ブランドの商品として育てて欲しいものです。お店の奥では皆さんがタオル雑巾にかわいい動物の刺繍をしておられました。2階は食堂兼軽作業やミシンなどの仕事場。ここではアルミチューブ加工の仕事をされていました。その他、ご近所からアルミ缶回収もしており、それらの収入が通所者の皆さんのお給料となるそうです。これらはタオ工房と地域の方々とのよい関係から生まれる理解と協力の結果と頼もしく感じました。ちょうどお昼時となり、皆さんと昼食をご一緒させていただきました。フードバンク関西からの食材もひと手間工夫されて加わった美味しいお食事、ごちそうさまでした。調理担当スタッフ桜井さんは、「フードバンク関西から届く食材を見て献立を考えるので、食材費の節約だけでなく買い物時間の節約も出来て、とても助かっています。」と言っておられました。お届けした食材が本当に活かされていることを感じて感激。施設長の芝さんは「食費で節約できた分をカラオケに出かけたりお楽しみ会に使ったりで、心豊かになった感じ。」とおっしゃっています。私達がお届けした食品が美味しい昼食に直接活かされているのを見て、とても嬉しく感じました。お互いに生き生きと明るい日々が送れますように、一人の力は小さいけれど、皆で力を合わせれば大きな力になる事を確信しながら、タオ工房を後にしました。



和服素材で作られた和の小物類

訪問者 川西

### タオ工房スタッフからのメッセージ

タオ工房ではリサイクルショップを運営しています。食器や洋服等、地域の方から寄付していただいたものや心をこめて作った刺し子のタオルや陶器も販売しています。皆が笑顔になる温かい雰囲気のお店です。

## 編集後記

### 広がっていくフードバンク

大学生の頃、スーパーマーケットの食品部門で、アルバイトをしていました。まだ十分に食べられる食品を、パッケージ破損や缶のへこみ、季節商品の入れ替え等の理由により廃棄される様子を、常々もったいないなという気持ちで見えていました。そんな事を忘れていた頃、縁があってフードバンク関西の理事長藤田さんと出会い、活動の内容を知ることが出来、以前の私の気持ちと一致し、これは是非私も参加させていただきたく思いました。

私がフードバンク関西の活動に参加し始めた1年半前に比べて、認定NPO法人格を取ることによって企業からの信用が高まったと同時に、テレビや新聞に取り上げていただく事で広く一般の方々にも知っていただく事が出来て、活動の範囲を広げることができました。

また企業だけでなく、思いもよらない一般の方々からの寄贈品の送付等、ご協力も得ることが増えてきました。また、ボランティアになる事を志願する人たちも以前の2倍以上に増え、配送の充実も回る事が出来、支援を求めて食品を受け取る福祉団体も3倍に増えました。

現在、ホームレス支援、障害者作業所、老人施設、母子支援施設、児童養護施設に届けられている食品は、主に米、パン、野菜、果物、加工鶏肉、お菓子類等がありますが、これらに加えてこれからお茶、レトルト食品など、もっといろいろな食品を届ける事が出来ればと切に望みます。

現在、いろいろな事情で生活に困窮されている方々に、余剰食品を食べ物として活用していただく事は、本来の使命を全うするという意味で食品に再び命を与えることであり、それを食して下さる方々が、しっかり食事をとって体力を取り戻し自立への活力を得て、一日も早く自立できれば素晴らしいと思います。

今後は、フードバンク関西がデリバリー活動に必要とされる資金を、企業や一般の方々からの寄付によって増やしていくことが最大の課題かと思えます。私達スタッフも、再度気を引き締めて良き活動を行っていきたいと思えます。



個人からの寄贈品も増加中

スタッフ 中馬

余った食べ物を預かって、必要なところに届けます フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL0797-34-8330

<http://foodbankkansai.web.infoseek.co.jp>

e-mail [foodbank05@yahoo.co.jp](mailto:foodbank05@yahoo.co.jp)